

# 漫画に見られる 〈視線無視〉の表現メカニズム

権敬珉\*

---

## 目次

---

- はじめに
  - 研究課題と研究目的
  - 漫画分析の対象と方法
    - 分析対象
    - 分析基準コードと分析方法
      - 分析基準コード
      - 分析方法
  - 分析結果
    - クロス分析による結果
    - ポライトネス理論による意味分析の結果
    - 「自原」対「他原」による分析結果
  - まとめ
- 

### 1. はじめに

視線の交換は、コミュニケーションにおける最も密度の高い接触といわれる。視線は感情、關心、反応に対する情報など多面的メッセージを伝えるシステムであるため、我々は視線から様々なメッセージを受け取っている。また、お互いに視線を交わすアイ・コンタクトは、大きな役割を果たしているが、意図的に目を伏せて話す「視線無視」も軽視できないパワーを持つ。

日本では「目は口ほどものを言う」という昔からよく言われている言葉がある。韓国でも「目は心の窓」「目色を見ると分かる」などのような表現があり、コミュニケーションにおける視線の使い方に注目されてきた。「ミステリースマイル」と言われている日本人の笑いと同様に、日本人の視線には韓国人と異なる独特なメカニズムがあるのではないだろうか。

### 2. 研究課題と研究目的

---

\* 牧園大専科 非常勤講師 漫画・アニメーション専科 社会言語学

ホール(1979)によると日本と韓国は「高コンテクスト文化(highcontext)」の國とされている。高コンテクスト文化では、言語より物理的・社会的・心理的・時間的な環境、または、その場の雰囲気や状況、非言語コード(アイ・コンタクト、ジェスチャーなど)、相手とのつながりに頼る度合いが大きい。東アジアの同じ漢字文化圏である日本と韓国は、歴史的にも長く関係しており、言語や非言語についても影響を相互に与え合っている。権(2004)は、韓国・日本・中国の漫画に見られる3か國の非言語行動について比較考察した結果、同じ非言語行動であっても、その意味や場面に相違が見られたと指摘している。

本稿では、日本と韓国の漫画に見られる表情のうち、目を伏せている表情、すなわち、視線無視をする表情だけに絞って、その意味についての日韓比較を試みた。漫画は社会的・文化的産物であり、漫画に表れる非言語行動にはそれぞれの國の考え方、習慣、風俗などが反映されているため、漫画の視線無視についての日韓比較は、日本と韓国のコミュニケーション・スタイルを探る一つの方法になると考えられる。なお、視線無視についてのポライトネス理論からの考察は、日本語教育の立場からの検討が必要であると考えられる。

### 3. 漫画分析の対象と方法

#### 3.1 分析対象

分析対象は、日本と韓国の4種類の新聞漫画と4種類の児童漫画である。今回の分析対象である新聞漫画は、全国をエリアにして長期間にわたって連載されているため、一般性が高いと評価できる。一方、児童漫画は、テレビでアニメーション化され、広く知られている日本の作品と、『한국만화의 역사(韓国漫画の歴史)』(1995)に載せられている韓国の代表的な児童漫画である作品を分析した。分析対象を新聞漫画と児童漫画とした理由は、漫画ジャンルによる日韓比較とともに年齢による分析も行う意図からである。ちなみに、漫画は、一コマ、一コマが停止されている場面であるため、目を逸らす瞬間の表情と感情をセットにして分析することができると考えられる。

分析範囲は、新聞漫画の場合、4コマ新聞漫画の4コマ目である。古岩井(1998)は、4コマ漫画の規則構造を1コマ目(状況)、2コマ目(発端)、3コマ目(主人公の心理的動機と反応)、4コマ目(意外な結果)と提起している。さらに、この構造は基本形と名づけてよいものであり、一般的にユーモア漫画に最も多く見られる型であると述べられている。また、高下(1983)は、実際に4コマ目の結末には他の周縁的ポイントが描かれており、周縁的ポイントの描寫は内容の予想や理解に影響を与えていると指摘している。このような4コマ漫画の特徴は、漫画の内容や登場人物の感情の正確な分析に役立つと思われる。一方、児童漫画は、全コマを分析対象にした。児童漫画の場合、漫画構成がストーリー漫画であるため、吹き出しの中のせりふやナレーション、ストーリーの流れから内容についての理解がしやすいと考えられる。

<表1> 分析対象

	日本(新聞; 2516コマ/児童; 3947コマ)	韓国(新聞; 2400コマ/児童; 3938コマ)
新聞	『あさって君』(毎日新聞社 2000年1月-12月) 『コボちゃん』(読賣新聞社 2000年1月-12月)	『왈순아지메』(中央日報 2000年1-12月) 『나대로선생』(東亞日報 2000年1月-12月)
児童	『クレヨンしんちゃん1・2』(双葉社 1992) 『ちびまる子ちゃん5・6』(集英社 1989・1990)	『악동이1・2』(바다그림판 2003) 『아기공룡 둘리1』(디자인하우스 2001)

### 3.2 分析基準コードと分析方法

#### 3.2.1 分析基準コード

表情分析は、研究者の客観的判断が困難な分野であると考えられているため、主に多くの人々の意見を聞いて結果を出すアンケート形式が行われているが、ここでは、アンケートを使わず、Harrison(1964)の「繪の分析(pictic analysis)」を利用して日韓の視線無視についての分析を試みた。「繪の分析」とは、繪も言語と同様に記述的分析、歴史的分析、比較分析などの分野に分けることができ、客観的分析が可能であるという概念である。「繪の分析」によってシンボル化された基準は、比較分析の基準として効果的な役割が期待される。図1は、Harrison(1964)の「繪の分析」によって作った分析基準コードである。図2は、各コードを組み合わせで作った図式的な顔である。図2-1は、今回の分析コードの「視線無視」を示す図式的な顔である。図3は、コード化された漫画の例である。

<図1> 分析基準コード

項目	分析基準コード						
眉毛 (eyebrows)							
目 (eyes)							
口 (mouths)							

<図2> 図式的な顔



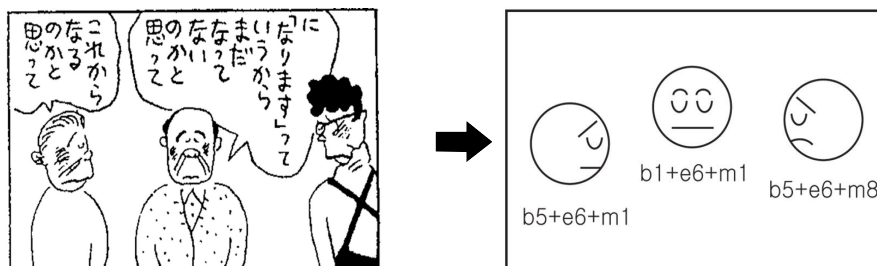
b1+e1+m1

<図2-1> 「視線無視」の図式的な顔



b1+e6+m1

<図3> コード化された漫画の例(『あさって君』毎日新聞社、2000)



### 3.2.2 分析方法

今回の分析は、大きく3つに分けて行う。まず、第一は、「幸福」「驚き」「困惑」「怒り」「感情」に該当する顔の記号と「目を伏せしている」「視線無視」の表情の記号とのクロス分析を行う。例えば、「困惑」の項目に現れる顔の記号と「視線無視」の項目に現れる顔の記号表現をクロスしてみると共通の記号が調べられる。このような共通の記号が「困惑」+「視線無視」のクロス分析の結果になる。第二は、ポライトネス理論の立場から日韓の「視線無視」についての意味を分析す。第三は、「視線無視」の原因を「自原」と「他原」に分けて、漫画に登場する「自原」対「他原」の割合について分析する。

## 4. 分析結果

### 4.1 クロス分析による結果

図4-1と図4-2はクロス分析した新聞漫画と児童漫画の結果である。感情と関係つけて「視線無視」についての表現メカニズムを調べてみると、日本と韓国の漫画には、感情による「視線無視」の使い方に相違があることが明らかになった。まず、一般的に「幸福」以外は、韓国の漫画より日本の漫画の方が登場人物の「視線無視」が多数見られた。漫画ジャンルによる分析の結果、日韓ともに「困惑」「怒り」の項目に視線無視が集中的に見られる。特に、日本の漫画には「困惑」の項目に視線無視の登場率が最も高かった。さらに、日本の新聞漫画には「困惑」の項目に、児童漫画には「困惑」「怒り」の項目に照れ笑い、苦笑いが多数表現されているが、韓国の場合は、「困惑」「怒り」の感情をストレートに表している。任(1999)には、断りの表現の時、アイ・コンタクト拒否をする日本人とアイ・コンタクトをする韓国人の差は言語表現から考えられると指摘している。日本人は明確に拒絶を表す表現をさける曖昧型を、そして、韓国人は曖昧さをさけて明瞭に伝えようとする率直型を好むので、日本人はチラチラとしか相手を見ず、韓国人より頻繁に視線をそらす傾向がうかがえられると述べられている。

日本の漫画に表されている視線無視もこのような日本人の傾向が表現されている。また、権(2003)は、新聞漫画に見られる日韓の表情を調べた結果、日本の漫画には困った時や怒った時の笑顔がよく登場し、複合感情が見られる。一方、韓国の漫画には困った時の「無表情」以外には感情がそのまま表情に表れる単一感情が多く見られると指摘している。さらに、大崎(1998)によると、受身の表現などの対照から一般的に日本語は「内向的」、韓国語は「外向的」と述べられている。言語表現と同様に、韓国の視線無視には、「困惑」と「怒り」の感情をそのまま表情に表す「外向的」性向が見られる。

<図4-1> 新聞漫画におけるクロス分析の結果

感情		幸福	驚き	困惑	怒り	感情(クロス)登場数 クロス登場率
視線無視 (新聞)	感情(クロス)登場数 %	216(6) 5.1	72(0) 0	414(74) [4] 62.7 [3.4]	110(34) 28.8	812(118) 100
	日本	(4) (2)		(58) (12) (4) (1) (1) (1) (1)	(12) (7) (5) (5) (2) (1) (1) (1)	
	感情(クロス)登場数 %	78(10) 30.3	39(0) 0	226(15) 45.5	81(8) 24.2	424(33) 100
	韓国	(6) (3) (1)		(4) (3) (3) (3) (1) (1)	(4) (1) (1) (1) (1)	

<図4-2> 児童漫画におけるクロス分析の結果

感情		幸福	驚き	困惑	怒り	感情(クロス)登場数 クロス登場率
視線無視 (児童)	感情(クロス)登場数 %	63(13) 6.3	79(0) 0	255(55) [22] 26.6 [10.6]	160(106) [11] 51.2 [5.3]	557(207) 100
	日本	(6) (5) (2)		(32) (8) (8) (7) (6) (4) (3) (2) (2) (2) (1) (1) (1)	(49) (17) (15) (4) (8) (6) (5) (4) (2) (2)	
	感情(クロス)登場数 %	195(15) 27.8	261(0) 0	306(21) 38.9	431(18) 33.3	1175(54) 100
	韓国	(5) (3) (3) (2) (2)		(7) (4) (3) (2) (1) (1) (1) (1) (1)	(5) (3) (3) (2) (2) (1) (1) (1)	

一方、日本の視線無視には、照れ笑いや苦笑いを見せる「内向的」性向が見られるのではないだろうか。図5は「怒り」の場面で苦笑いを見せている視線無視の例で、図6は「怒り」の感情をストレートで表している韓国の漫画の例である。

<図5> 『クレヨンしんちゃん 1』



<図6> 『아기공룡둘리』













#### 4.2 ポライトネス理論による意味分析の結果











「ポライトネス理解のためのキーワード集」(宇佐美 他, 2001)によると、ポライトネス理論について初めて考えたブラウンとレビンソンは、「基本的要求としてのポジティブ・フェイス(positive face)とネガティブ・フェイス(negative face)を脅かさない配慮すること」が「ポライトネス」であると捉えている。人間には、人との関わり合いに関する「基本的欲求」としてポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスという2種類のフェイスがある。ポジティブ・フェイスとは他者に理解されたい、仲間だとみなされたい、つまり「他者に近づきたい」という「プラス方向への欲求」である。ネガティブ・フェイスとは他者にじゃまされたり、立ち入れたくない、つまり「他者と一定の距離を置きたい、ここから先へは踏み込んでほしくない」という「マイナス方向に関する欲求」と述べられている。

表2と表3は、視線無視の意味を分析したものであるが、「視線無視」の登場場面をポライトネス理論から「(+ )ポジティブ視線無視」「(-)ネガティブ視線無視」そして「(0)単なる視線無視」に分けて分析を試みた。図7は、ポライトネス理論による「視線無視」の分析結果である。図7から分かるように、日本の漫画には(-)ネガティブ視線無視が多く表現されており、一方、韓国の漫画には(+ )ポジティブ視線無視が主に使われていることが明らかになった。特に、日本の新聞漫画と韓国の児童漫画は、(-)ネガティブ視線無視と(+ )ポジティブ視線無視が最も大きな差を現れた。図8は、「不満」を表す(-)ネガティブ視線無視の日本の児童漫画で、図9は、「敬意」を表す(+ )ポジティブ視線無視の韓国の新聞漫画である。

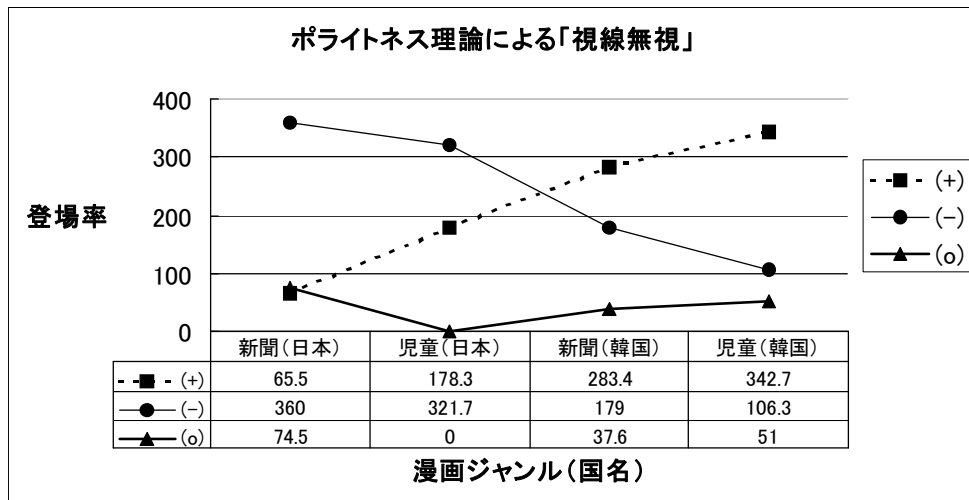
<表2> 新聞漫画に見られる「視線無視」の上位5位

1. 新聞漫画						
順位	日本			韓国		
	(コード) 登場数	(P) 場面	%	(コード) 登場数	(P) 場面	%
1	 (155)	(0) 単なる (+) 説明 (-) 無視 (+) 提案・要求・お願い (-) 失望・悲しみ (-) 不満・皮肉 (-) 恥・困惑 (+) 決心 (-) 謝罪 (+) 感想	49.0 13.5 9.7 6.5 5.9 5.2 4.5 3.2 1.9 0.6	 (32)	(+) 説明 (+) 告白・知らせ (+) 提案・お願い (-) 不満・皮肉 (+) 敬意(-) 脅迫 (-) 断り(-) 下心 (+) 祈る(+ 命令 (-) 反省(-) 断念	25.0 15.6 12.5 9.3 6.3/6.3 6.3/6.3 3.1/3.1 3.1/3.1
2	 (80)	(-) 恥・困惑 (-) 失望・悲しみ (-) 不満・皮肉 (+) 説明 (-) あきれ (-) 断念 (+) 提案(+ 決心 (0) 単なる (+) 納得(-) 無視	25.0 23.8 13.8 10.0 8.8 6.3 3.7/3.7 2.5 1.2/1.2	 (17)	(-) 無視 (0) 単なる (-) 不満・皮肉 (-) 否定 (+) 権威(+ 決心 (-) 断り(-) 心配	35.2 17.6 11.8/ 11.8 5.9/5.9 5.9/5.9
3	 (65)	(-) 不満・抗議 (-) 失望・悲しみ (-) 心配(-) 悩み (-) 困惑・謝罪 (-) 指摘・忠告 (-) 無視 (-) 訴える	30.7 24.6 15.4/15.4 6.2 3.1/ 3.1 1.5	 (15)	(+) 敬意/ (-) 下心/ (-) 断念/ (0) 単なる (+) 権威 (-) 怒り	20.0/ 20.0/ 20.0/ 20.0 13.3 6.7
4	 (22)	(-) 不満・皮肉・抗議 (0) 単なる (+) 命令 (-) 謝罪/断念 (-) あきれ	45.5 18.2 13.6 9.1/9.1 4.5	 (15)	(+) 提案 (+) 敬意 (+) 自慢/ (+) 納得	40.0 33.4 13.3/ 18.8
5	 (21)	(-) 指摘・忠告 (-) 不満・皮肉 (-) 恥・困惑(+ 命令/ (-) 怒り (-) 無視(-) 下心 (0) 単なる	33.3 23.8 9.5/9.5/ 9.5 4.8/4.8 / 4.8	 (11)	(+) 自慢・余裕 (+) 感想/ (-) 謝罪 (+) 満足/ (-) 無視	45.4 18.2/ 18.2 9.1/ 9.2
自原(131): 他原(212)			38.2 : 61.8	自原(25): 他原(65)		27.8 : 72.2

<表3> 児童漫画に見られる「視線無視」の上位5

5. 児童漫画						
順位	日本			韓国		
	(コード) 登場数	(P) 場面	%	(コード) 登場数	(P) 場面	%
1	 (57)	(-) 不満・皮肉 (-) 指摘 (+) 命令 (-) 我慢 (+) 説明 (-) 怒り (+) 決心 (-) 否定 (-) 断念	24.5 19.3 15.7 12.3 10.5 7.1 5.3 3.5 1.8	 (68)	(+) 説明 (+) 権威 (+) 自慢・満足 (+) 宣言・命令 (-) 注意(-) 警告 (+) 要求(-) 下心 (+) 感謝 (+) 質問/ (0) 単なる/ (-) 告げ口	25.0 19.1 10.3 8.9 7.3/7.8 7.3/7.8 3.0 1.5/ 1.5/ 1.5
2	 (46)	(+) 説明/ (+) 提案・要求・お願い (-) 断り (-) 悲しみ(-) 後悔 (-) 下心(-) 不満 (-) 無視 (+) 敬意(-) 指摘	23.9/ 23.9 17.4 6.5/6.5 6.5/ 6.5 4.4 2.2/ 2.2	 (11)	(-) 無視 (0) 単なる (+) 宣言 (+) 提案/ (-) 不満	36.3 27.3 18.2 9.1/ 9.1
3	 (39)	(+) 自慢/(+) 我慢 (+) 命令/(+) 説得 (-) 断念 (+) 満足/(-) 下心 (+) 説明(+ ) お願い (-) 恥・困惑/(+) 決心/ (-) 皮肉 (-) 癪に障る/ (-) 無視	15.4/15.4 10.2/10.2 10.2 7.7/7.7 5.1/ 5.1 2.6/ 2.6/2.6/ 2.6/ 2.6	 (9)	(+) 権威 (+) 考えている/ (0) 単なる (+) 自慢/ (+) 納得	33.4 22.2/ 22.2 11.1/ 11.1
4	 (32)	(-) 哀願 (-) 恥・困惑 (-) 謝罪 (+) 説明 (-) 断念 (-) 言い訳(-) 面倒臭い	31.2 21.9 18.8 12.5 9.4 3.1 / 3.1	 (9)	(+) 満足 (+) 納得/ (+) 自信	77.8 11.1/ 11.1
5	 (25)	(-) 我慢 (-) 困惑 (+) 提案/ (-) 怒り/ (-) 指摘 (+) 説明(-) 下心 (+) 決心(+ ) 幸福	24.0 16.0 12.0/ 12.0/ 12.0 8.0/8.0 4.0/4.0	 (8)	(+) 祈る (-) 断り (+) 命令/ (+) 要求/ (-) 恥・困惑	37.5 25.0 12.5/ 12.5/ 12.5
自原(21): 他原(178)			10.6 : 89.4	自原(10): 他原(95)		9.6 : 90.4

<図7> ポライトネス理論による視線無視の日韓比較



<図8> 『ちびまる子 6』



<図9> 『나대로선생』  
ノーベル賞の候補として推薦



(1) 新聞漫画における視線無視

表2から分かるように、日本の新聞漫画の場合、「不満」が5つの順位にすべて載せられていて、「恥」「困惑」「無視」も4つの順位にランクされている。一方、韓国は「敬意」「權威」のように上下に焦点が当たられている「視線無視」が目立つ。韓国では、「눈에 쌍심지를 켜다(目に二本の燈心をともす)」「눈을 곤두 세우다(目を逆立ちする)」「눈을 부라리다(目を怒らす)」という言語表現があり、怒ると目付きがけわしくなることを喩えたものである。これらは、お叱りや訓戒の場面で、不満な気持ちを表しながら目上の人と目線を合わせている、目下の人の態度を批難する表現としてよく使われる。例えば、「아버지가 말씀을 하시는데 어디서 눈을 곤두 세우냐(お父さんがお話をしているのに、目を逆立ちしてはいけない)」のように對人関係における上下から大きな影響を受けている。日本語でも「目を三角にする」「目をみはる」「目を吊り上げる」というほぼ同じ意味の言語表現が存在するが、「敬意」を持たないニュアンスとしては使われていない。ちなみに、大崎(1998)によると、日本と韓国における社會・文化の相違の大きな一つの要因として儒教の影響の有無を挙げることができると述べられている。日本の漫画と異なって、韓国の漫画に上下関係による「權威」「敬意」などの意味がよく登場することは、韓国人の儒教思想が漫画にも自然に表現されていることで、根本的に視線無視に對する表現メカニズムの相違が存在するのではないだろう。

(2) 児童漫画における視線無視

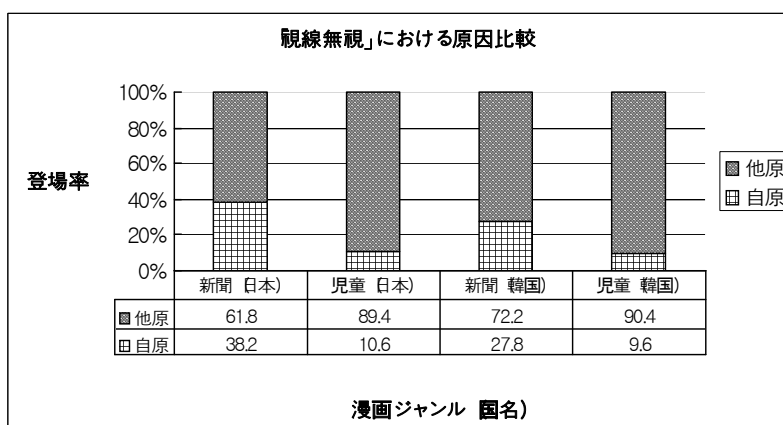
日本の児童漫画は、新聞漫画と同様に「不満」「皮肉」「無視」な「(-) ネガティブ視線無視」が多数を占めているが、「説明」の場面での「(+ ) ポジティブ視線無視」も5つの順位にすべてランクされている。「説明」の視線無視が多数表現されていることは、児童漫画という漫画ジャンルの内容的特徴からその原因を探ることができる。児童漫画は内容上、子供に向かって話をしたり、アドバイスや説明をする場面が多いため、「説明」という「(+ ) ポジティブ視線無視」が多く登場したのではないだろうか。一方、韓国の児童漫画では、新聞漫画と同様に「権威」「満足」「祈る」など「(+ ) ポジティブ視線無視」が多く見られた。さらに、上位5位までのコードのうち、笑顔を表している日本の3位・5位と韓国の4位のコードを比較考察した結果、韓国の場合は、「満足」「納得」「自信」などのような肯定的イメージの笑顔である反面、日本の場合は、5位までの全体500%のうち、「自慢」「満足」「幸福」などの肯定的イメージの笑顔は96.8%で、「我慢」「困惑」「怒り」などの否定的イメージの笑顔が139.1%を占めていることが分かった。

#### 4.3 「自原」対「他原」による分析結果

「視線無視」という「行動機能」は、働きかけの原因によって、二つに分類することができる。まず、視線無視をする原因が自分である「自原(自己原因)」と他人とのコミュニケーションの際に視線無視が行われる「他原(他人原因)」である。漫画に見られる視線無視を「自原」と「他原」に分けて比較することは、視線無視についての表現メカニズムを探るもう一つのアプローチになると考えられる。

今回の分析の結果、図9から分かるように、全体的に「視線無視」は、日韓ともに「自原」より「他原」による場合が多い。さらに、大人が主な読者である新聞漫画より、子供向けのに児童漫画の方が他原に頼る具合が多数であることが分かった。

<図9> 漫画に見られる視線無視の「自原」対「他原」についての比較分析



##### (1) 新聞漫画の「自原」対「他原」

日韓ともに児童漫画より新聞漫画の方に「自原」の登場率が高かったが、その理由として「ウチ」「ソト」「ヨソ」の概念を適応してみたい。「ウチ」「ソト」「ヨソ」は、日本人の人間関係や言語行動を支配する社会・文化的特徴を考える仕組みとして提唱される概念である(三宅(1994 a))。韓国語にも「우리(ウ

チ)「남(ソト・ヨソ)」というほぼ同じカテゴリが存在するが、日韓のこのような表現は、文化に基づいて考えられる。韓国の社会構造は、内側から自分、血族、親族、地縁や学縁の知人、一般の知人へと同心円状に広がる「우리」と同心円の外にある「남」で構成されている。韓国の「우리」には日本の「ウチ・ソト」が当たり、韓国の「남」は日本の「ヨソ」に当たると思われる。三宅(1994b)によると日本人はソトの関係の人間に對して最も注意を拂い、言語表現にも氣を配るが、「ウチ」の人間に對してはこのような緊張感が減る。日本の新聞漫画である『コボちゃん』と『あさって君』は主な登場人物が家族で、ストーリーの展開も家族間のやり取りが多い。それが日本の新聞漫画に無表情が多く表現される理由であると考えられる。表2の1位に載せられているコードには「單なる」の視線無視が49.0%を占めているが、ここで「單なる」とは「無表情」として捉えられる。日本の新聞漫画の「自原」が38.2%であることを考えると、残りの0.8%は「他原」による「無表情」であることが分かる。つまり、「視線無視」の無表情は「自原」と「他原」の両方からの二重意味の態度であることがうかがえられる。

一方、韓国では、「우리」の外界に生じた「남」たちの集まる場に、氣を使う必要は全くない。重要なのはあくまでも個々人の親密感なのである(吉田 1995)。韓国の『나대로선생』と『알순아지메』は、主な登場人物は日本と同様に家族であるが、内容上、政治や社会的問題などをテーマにしている場合がほとんどであるため、漫画に實存人物が多く描かれている。實存人物は全く関係のない「남」に当たるので表2の2位のコードに載せられている「單なる」や「無視」などの意味として「自原」の登場率が高かった。このような結果から韓国人の「視線無視」の無表情は「남」に對する典型的な態度であるため、日本人の「視線無視」の無表情とは根本的な相違を持っていると思われる。

(2) 兒童漫画の「自原」對「他原」

日韓ともに兒童漫画は、約90%が「他原」である。日本の兒童漫画では「不満」「恥」などを隠すためのストラテジーとして使われる場面が多数であるが、韓国の兒童漫画では、他人を意識して自分をよく見せる行動としての「視線無視」が多数登場する。図10は、「ウチ」の人間である自分の子供に向かって「不満」の感情を抑えている表情とともに視線無視が表現されている。一方、図11は、同じ小學校の「우리」のグループで、「權威」のストラテジーとして視線無視が使われている韓国の兒童漫画の例である。

<図10> 『クレヨンしんちゃん』



<図11> 『악동이』



5. まとめ

本稿は、漫画に見られる視線無視についての分析から日本人と韓国人の表現メカニズムを探った。絵も言語と同様に客観的分析が可能であるという理論から、漫画に表現されている視線無視を「幸福」「驚き」「困惑」「怒り」の感情と結びつけてクロス分析を試みた。そして、ポライトネス理論から視線無視の意味を「(+ )ポジティブ視線無視」「(- )ネガティブ視線無視」「(0 )単なる視線無視」に分けて日本人と韓国人の視線無視の性向を調べた。最後に、視線無視の原因を大きく二つに分類して「自原(自己原因)」と「他原(他人原因)」の登場率を比較を行った。

結論として、日本の漫画に見られる視線無視には、「困惑」「怒り」の感情とともに照れ笑いや苦笑いが表現されている複合感情であるものの、韓国の場合は、感情がストレートにそのまま描かれている単一感情であることが分かった。そして、ポライトネス理論からの考察結果、日本の視線無視の意味は「不満」「恥」「困惑」などの「(- )ネガティブ視線無視」が多数であるものの、韓国の視線無視の意味は「自慢」「満足」「感想」などの「(+ )ポジティブ視線無視」が多く表現されている。最後に、原因による分析の結果、日韓ともに「自原」より「他原」の方が多数を占めているが、漫画ジャンルによる相違が見られ、大人が主な読者である新聞漫画より子供向けの児童漫画の方が「他原」の視線無視の登場率が高かった。

漫画に表現されている視線無視には、日本と韓国、それぞれの社会や文化を背景にした考え方や規範が大きく反映されている。日本人と韓国人の円滑なコミュニケーションのための一つの方法として視線無視の表現メカニズムについての認識が考えられる。さらに、日本語教育の非言語行動教育の立場からも、視線無視についてのより多様な研究が求められる。

## 【参考文献】

- 최 열(1995) 『한국만화의 역사』, 열화당. p.173-176
- 任炫樹(1999) 「日本語と韓国語の斷り表現」『ことばと科學』第12号  
名古屋大學言語文化部言語文化研究會 p.201-215
- 宇佐美まゆみ・他(2001) 「ポライトネス理解のためのキーワード集」『言語』Vol.30 No.11 大修館書店
- エトワード・T・ホール(1979) 『文化を超えて』岩田慶治・谷梨 譯TBS ブリタニカ
- 大崎正瑠(1998) 『韓国人とつきあう法』ちくま新書
- 權敬珉(2002) 「日韓の非言語コミュニケーションにおける表情の對照-新聞漫画の分析を中心に-」社會言語科學會 第9回研究大會豫稿集
- 權敬珉(2004) 「日本・韓国・中國の漫画に見られる非言語行動の比較研究」『言語』Vol.33 No.6 大修館書店
- 古岩井嘉容子(1998) 「語りとしての漫画の構造-笑いの意味するもの」『文体論研究』44、 p.24-37
- 高下保幸(1983) 「四コマ漫画の予想可能性とユーモアとの關係」『福岡大學人文論集』 p.739-757
- 三宅和子(1994a) 「日本語の行動パターン-ウチ・ソト・ヨソの認識」『筑波留學センター論集』第9号
- 三宅和子(1994b) 「詫び以外で使われる詫び表現-その多用化の實態とウチ・ソト・ヨソの關係」『日本語教育』82号 p.134-146
- 吉田博司(1995) 『朝鮮民族を讀み解く』ちくま新書
- Randall, P. Harrison(1964) Pictic analysis - with research on facial expressions. Ph. D. Dissertation, Michigan State University

## 要 旨

漫畫に見られる視線無視についての分析から日本人と韓國人の表現メカニズムを探った。分析結果、日本の漫畫に見られる視線無視には、「困惑」「怒り」の感情とともに照れ笑いや苦笑いが表現されている複合感情であるものの、一方、韓國の場合は、感情がストレートに描かれている単一感情であることが分かった。そして、ポライトネス理論からの考察結果、日本の視線無視の意味は「不満」「恥」「困惑」などの「(-)ネガティブ視線無視」が多数であるものの、韓國の視線無視の意味は「自慢」「満足」「感想」などの「(+ )ポジティブ視線無視」が多く表現されていた。最後に、原因による分析の結果、日韓ともに「自原」より「他原」の方が多数を占めているが、漫畫ジャンルによる相違が見られ、大人が主な讀者である新聞漫畫より子供向けの兒童漫畫の方が「他原」の視線無視の登場率が高い。

漫畫に表現されている視線無視には、日本と韓國、それぞれの社會や文化を背景にした考え方や規範が大きく反映されているため、日本人と韓國人の円滑なコミュニケーションのための一つの方法として視線無視の表現メカニズムについての認識が考えられる。

キーワード：繪の分析、コミュニケーション、視線無視、文化、漫畫、感情

투 고 : 2004. 5. 31

1차 심사: 2004. 6. 12

2차 심사: 2004. 7. 3

住 所 : 경기도 용인시 수지 만현마을 아이파크 505-403

電 話 : 031-272-9679 / H · P : 010-5299-8853

E-mail : ai4min@nate.com